

北海道，奥尻島のアリ類

東京大学教養学部生物学教室 寺山 守

TERAYAMA, Mamoru : Ants of Okushiri-tô island, Hokkaido

Abstract. Twenty-one species of ants were recorded from Okushiri-tô island, Hokkaido.

奥尻島は北海道の西方約 60 km の洋上に位置する面積 143 km² の孤島である。本島に見られる動植物の分布を点検すると、本州に分布し北海道では本島のみに見られるものが幾つか存在する。例えば植物ではオクマワラビ (*Dryopteris uniformis*)、ミサキカグマ (*Dryopteris chinensis*)、昆虫ではフタオビミドリトラカミキリ (*Chlorophorus muscosus*) がこれに該当する。

本島でのアリの調査はほとんど行われておらず、西園・山根 (1990) にアシナガアリ属の 2 種が見られるにすぎない。今回、本島においてアリ類の採集調査を行った結

果、4 亜科 11 属 21 種が採集あるいは確認された。その概略を報告する。

PONERINAE ハリアリ亜科

- 1) *Hypoponera sauteri* Forel ニセハリアリ

MYRMICINAE フタフシアリ亜科

- 2) *Myrmica ruginodis kotokui* Forel
シワクシケアリ
3) *M. jessensis* Forel エゾクシケアリ
4) *Pheidole fervida* Fr. Smith アズマオオズアリ

- 5) *Aphaenogaster famelica* (Fr. Smith)
アシナガアリ
- 6) *A. smythiesi japonica* Forel
ヤマトアシナガアリ
- 7) *Vollenhovia emeryi* Wheeler ウメマツアリ
- 8) *Strumigenys* sp. キタウロコアリ
- DOLICHODERINAE カタアリ亜科
- 9) *Dolichoderus sibiricus* Emery
シベリアカタアリ
- FORMICINAE ヤマアリ亜科
- 10) *Paratrechina flavipes* (Fr. Smith)
アメイロアリ
- 11) *Formica japonica* Motschulsky クロヤマアリ
- 12) *F.* sp. ハヤシクロヤマアリ
- 13) *F. yessensis* Forel* エゾアカヤマアリ
- 14) *Lasius japonicus* Santschi トビイロケアリ
- 15) *L. hayasi* Yamauchi & Hayashida
ハヤシケアリ
- 16) *L. fuliginosus* (Latreille) クロクサアリ
- 17) *L. spathepus* Wheeler クサアリモドキ
- 18) *L. flavus* (Fabricius) キイロケアリ
- 19) *L. umbratus* (Nylander) アメイロケアリ
- 20) *Camponotus japonicus* Mayr クロヤマアリ
- 21) *C. obscuripes* Mayr ムネアカオオアリ

* : 北海道大学農学部所蔵標本による。

ニセハリアリ *H. sauteri* は台湾から本州東北地方まで分布が知られているが、今回北海道から初めて記録された。また、キタウロコアリ *Strumigenys* sp. も正式には今回の記録が北海道初記録になる。ただし、棟方 (1972) は松前離小島からウロコアリ *Strumigenys lewisi* を報告している。当時 *Strumigenys* は *lewisi* と *solifontis* の2種のみが知られており、棟方が *lewisi* としたものは、個体を点検した限りではキタウロコアリであった (緒方他, 1992)。その他、ウメマツアリ *Vollenhovia emeryi* も北海道では少ない種である。

本島は本州、四国、九州の島嶼と比較すると、面積に比して所産種数は少ないと言えるが、種組成の類似度は同じ北海道の利尻島、礼文島、色丹島よりも本州の金華

山島や佐渡島との方が高いことが示された。(寺山, 1992 参照)。津軽海峡には動物相を区分する有名なブラキストン線が存在するが、森下 (1945) の研究では、北海道南部と本州北部のアリ相はほぼ同一であって津軽海峡はアリ類の分布を規定する物理的障壁にはなっていないという結論に達している。実際、旧北区系の多くの種は本州に分布し、また南方系の種、例えばノコギリハリアリ *Amblyopone silvestrii*, トビニセハリアリ *Hypoponera bondroiti* ウメマツアリ *Vollenhovia emeryi*, アミメアリ *Pristomyrmex pungens*, あるいは今回記録されたニセハリアリ等が北海道に侵入している。今回の奥尻島での調査結果も、北海道南部に位置する本島のアリ相は本州北部の島嶼のアリ相と類似性が高く、海峡が分布を制限する強い要因にはなっていないと言う森下 (1945) を支持する。

参考文献

- 小暮 保, 1957. 蟻. 43pp. (自刊)
- 西園祐作・山根正気, 1990. 鹿児島県産アシナガアリ属の分類. 鹿児島大学理学部紀要 (地学・生物学), (23) : 23-40.
- 棟方明陽, 1972. チッチゼミとウロコアリの北海道からの記録. 昆虫, 40 : 314.
- 1987. 奥尻島のハナバチ類とカリバチ類採集記. 蜂友通信, (27) : 35-39.
- 森下正明, 1945. 北海道南端の蟻. むし, 16 : 21-28.
- 緒方一夫・小野山敬一・寺山 守, 1992. ウロコアリ属. 日本産アリ類の検索と解説 (Ⅲ) フタフシアリ亜科, ムカシアリ亜科 (補遺) (日本蟻類研究会編) : 63-71.
- Onoyama, K., 1989a. Notes on the ants of the genus *Hypoponera* in Japan (Hymenoptera : Formicidae). Edaphologia, (41) : 1-10.
- 1989b. Three ants (Hymenoptera, Formicidae) new to Hokkaido, Japan. Jpn. J. Ent., 57 : 604.
- 寺山 守, 1992. 東アジアにおけるアリの群集構造 I. 地域性および種多様性. 日本生物地理学会会報, 47 : 1-31.